

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	その他指導内容や指導方法において特徴ある工夫が行われている実践事例
-------	-----------------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

埼玉県久喜市

○学校名

久喜市立菖蒲中学校

○学校のURL

<http://www.kuki-city.ed.jp/shobu-j/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 9学級、【特別支援学級】 2学級、【合計】 11学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 328人（平成26年12月 1日現在）
（内訳：1年生108人、2年生103人、3年生117人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成25・26年度人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

- ・自ら学ぶ生徒
- ・正しい判断力と旺盛な実行力をもつ生徒
- ・心身ともに健康な生徒

【人権教育に関する目標】

（目指す生徒像）

- ・自分の大切さ・他の人の大切さを認めることができる生徒
- ・思いやりの心を、目に見える形で言葉と行動に表せる生徒

○人権教育に係る取組一口メモ

道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間を要とし、生徒指導の機能を生かした人権教育の推進

○人権教育にかかる取組の全体概要

- 道徳・特別活動・総合的な学習の時間を関連付け、協力・参加・体験の学習を展開
- 人権感覚育成のための九つの視点に基づいた学習の実践
- 各教科等に人権教育の重点目標を設定
- 人権感覚の育成についての評価の在り方の工夫
- 生徒が自分の大切さや他の人の大切さを認め、意欲的・積極的に取り組む指導方

法の工夫

- 人権感覚育成のための言語環境や校内環境の工夫改善
- 地域との連携・協力

3. 特色ある実践事例の内容

・取組のねらい、目的

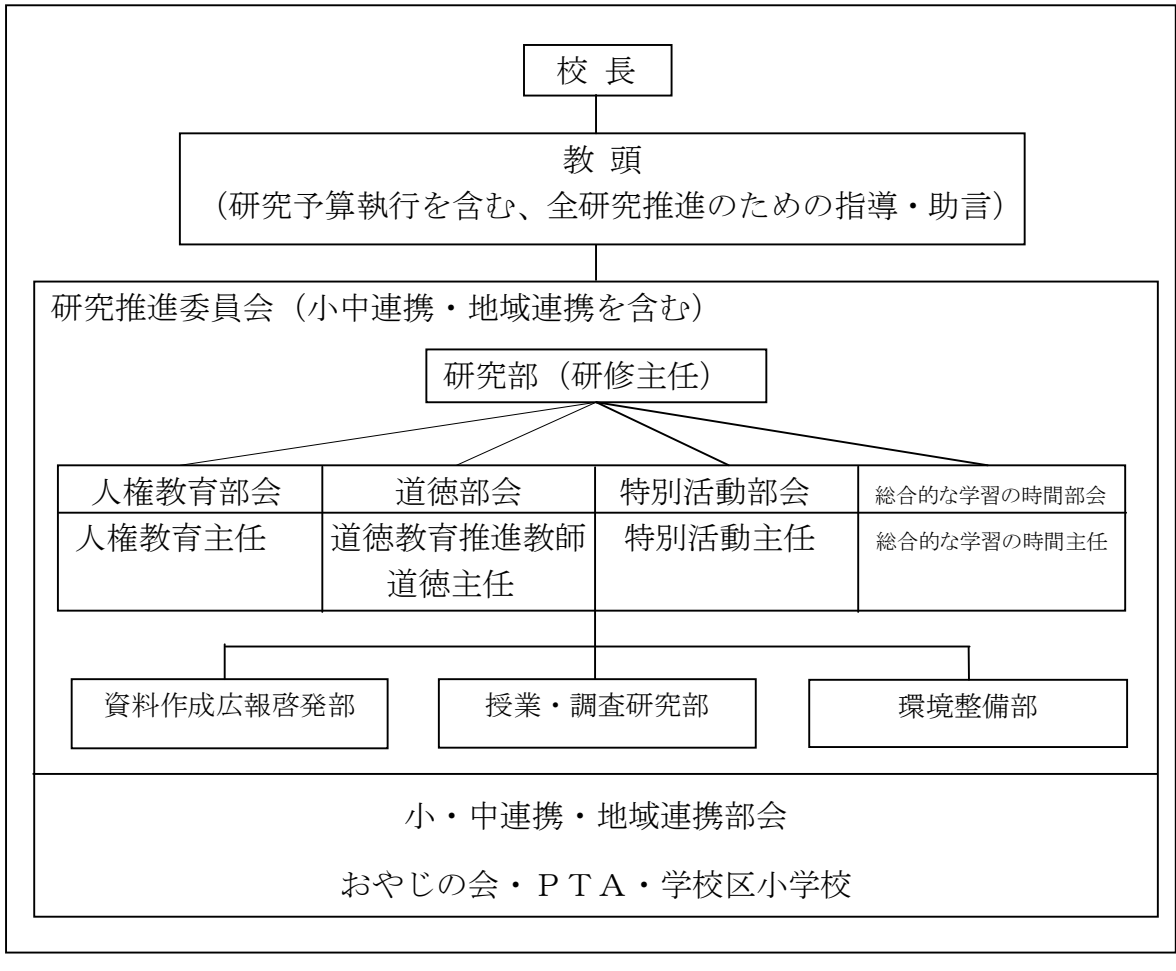
生徒指導の機能を生かした人権教育の研究を深めることにより、人間らしく生きることのできる資質としての総合的な人間力を育成する。

・取組を始めたきっかけ

本校は、生徒指導上の課題など多くの課題を抱えていた。そこで、3年前から学習への意欲や生き方、在り方等、学力を支える基盤となる心の育成（道徳教育の充実）により生徒の内面をよりよく変化させ、学校再生を図った。

平成25年度から、今までの取組成果を生かすとともに、改めて見えてきた課題を総合的に考え、生徒指導の機能を生かした人権教育の研究に取り組むこととした。

・取組の主体や実施体制



- ① 人権教育研究部会
- ア 人権教育重点週間の取組計画作成・実施
 - イ 地域社会との連携推進
 - ウ 菖蒲地区人権集会における菖蒲中よさこいソーラン実施計画
- ② 広報啓発・調査研究部
- ア 人権感覚アンケートの作成・実施（教員用、生徒用、保護者用）
 - イ 道徳意識調査の実施（平成23～24年度道徳教育の研究から継続調査）
 - ウ 人権新聞の発行（知識、実態、良い話、調査結果、取組予定 等）
- ③ 資料作成・授業研究部
- ア 授業研究へ向けた取組（道徳、特別活動、総合的な学習の時間）
 - ・指導案の作成、検討
 - ・先行授業の実施
 - ・研究紀要の作成
 - ・人権感覚育成プログラムを活用した授業の実施
 - イ 学習指導案の様式等の検討
 - ウ 人権教育の視点を取り入れた年間指導計画の見直し
 - エ 菖蒲中メソッドの作成
- ④ 環境整備部
- ア 校内掲示物の作成（人権教育にかかる目指す生徒像の掲示、人権ポスター、人権標語、校内善行賞「しらさぎ賞」）
 - イ 人権ストリークの整備
 - ・校舎間の渡り廊下を人権ストリートとして整備
 - ウ 各教室に、人権教育、道徳、学活コーナーを設置
 - エ 各教室に人権スローガンを掲示
 - オ 花と緑のある学校
 - ・グリーンファーム
 - ・グリーンカーテン
 - ・PTA奉仕作業による花卉移植、除草作業
 - ・おやじの会による除草作業
 - ・全校除草作業



3. 特色ある実践事例の内容

主な実践記録

<平成25年度>

6月14日（金）道徳（2-2） 「昼休みの出来事」

6月24日（月）「命の大切さを学ぶ教室」

6月25日（火）道徳（2-3） 「ジャッジとチャレンジ」

6月25日（火）校内研修会「道徳教育と特別活動の連携を図った学年
・学級経営について（人権教育の推進を図るために）」

7月11日（木）校内研修会「道徳教育と人権教育」

8月 1日（木）校内研修会「道徳と人権教育」「指導案検討」

- 8月21日（水）校内研修会「総合的な学習の時間と人権教育」「指導案検討」
- 8月29日（木）校内研修会「道徳教育と特別活動の連携を図った人権教育の推進」「指導案検討」
- 10月18日（金）総合的な学習の時間（1年）車椅子、アイマスク、高齢者疑似体験



- 11月30日（土）ふれあい講演会
朗読「ハッピーバースデー」
- 11月30日（土）久喜市しょうぶ人権の集い参加 よさこいソーラン全校演舞披露
- 12月 2日（月）特別活動（3-3）「新しい大陸に向けた航海」
（人権感覚育成プログラム増補版より）
- 1月20日（月）道徳（2-2）「星置きの滝」
- 1月20日（月）総合的な学習の時間（1年）視覚障がい者の方から学ぶ
- 1月22日（水）「思いやりの心を育てる人権教育」（1年）人権擁護委員
- <平成26年度>
- 5月12日（月）から23日（金）第1期人権教育重点週間
- 5月19日（月）人権集会（全校集会～各学級の決意表明など～）
- 6月23日（月）道徳（3-2）「最初の公認女性医師・荻野吟子」
- 6月27日（金）校内研修会「人権教育を踏まえた学級活動における話し合い活動」
- 7月 4日（金）総合的な学習の時間（1学年）「共に生きる」追究活動の計画づくり
- 8月 4日（月）校内研修会「特別活動と人権教育」「指導案検討」
「道徳と人権教育」「指導案検討」
- 8月 5日（火）校内研修会「人権教育概論及び総合的な学習の時間」
「指導案検討」
- 10月16日（木）特別活動（2-3）「合唱コンクールに向けての話し合い活動」
- 11月10日（月）から21日（金）第2期人権教育重点週間
- 11月18日（火）研究授業発表会 道徳・特別活動・総合的な学習の時間
講演「人権教育の充実を目指す学校力・教師力」

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

・取組を実施する際に生じた課題

- 1 本校教職員の人権教育の方向性に対する共通理解の構築
- 2 生徒の人権教育の意識を高める方法
- 3 小中一貫教育の必要性

・課題に対する解決方法

- 1 平成23・24年度の2年間、道徳について本校は研究を重ねてきたこと。そのことから、1学期は道徳を中心に人権教育の推進を図った。しかし、人権教育について、どのように取り組んだらいいのか行き詰まりが見えてきたため、夏季休業中に講師を招き、集中して人権教育の基本的な概念からの講義を設定した。推進校への視察、研究授業発表への参加、人権教育指導者養成研修への教職員の派遣を積極的に行い研修を更に深めた。その結果、2学期以降は、研究の方向性を全教職員が共通理解することができた。

研究委嘱・委託2年目を迎えると、半数近くの教職員が入れ替わったため昨年度と同様に、夏季休業中に講師を招き、集中して人権教育の基本的な概念から講義を設定した。その結果、昨年度同様、2学期以降、研究の方向性を全教職員が共通理解することができた。

また、道徳・特別活動・総合的な学習の時間のそれぞれで人権教育に関しての着実な研究は進んでいたが、学校として一本化された人権教育の目標が今一步、絞り込めていなかった。そこで、「人権教育にかかる目指す生徒像」を定め各教室に掲示することにより、全教職員の共通理解を深め、一枚岩となって研究を進めることができた。

- 2 生徒が常に人権教育に関することが目につくように、環境整備部による掲示物の充実を図った。特に効果的であったのは人権ストリークの設置、人権教育にかかる目指す生徒像の教室の掲示、各学年の人権コーナーであった。また、善行賞の活用も効果的であり昨年度は600枚超、今年度も現在300枚を超えており、教職員も生徒の良い点を積極的に見つけることができるようになった。
- 3 研究を進めていく上で、小学校における人権教育の概要を中学校が把握しておく必要があることを痛感した。そのためには、小中一貫教育を充実させ、9年間を見通した人権教育指導計画を作成する必要がある。その課題を踏まえた場合、出前授業における中学校の教職員の交流や、部活動単位で小学校の行事に教職員・生徒が参加することは、小学校の児童の実態を把握する意味で効果的であった。

5. 実践事例の実績、実施による効果

取組の実績

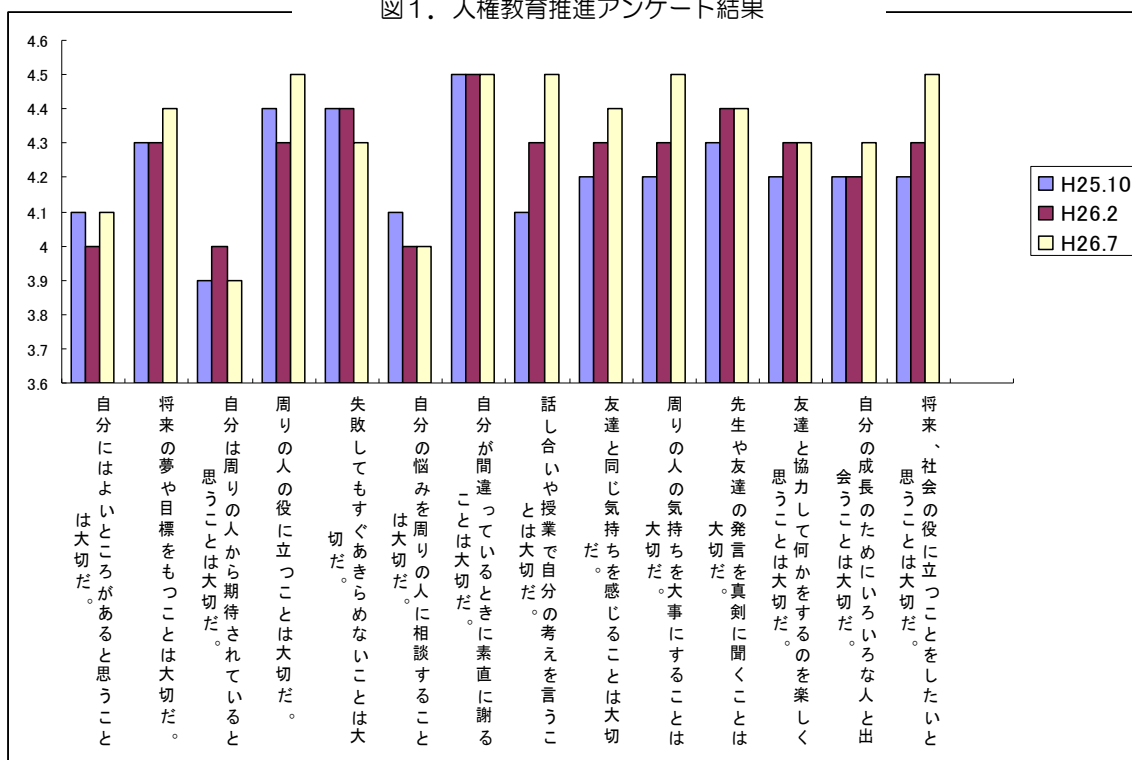
表1は人権感覚アンケートの結果で、各項目の平均値を示している。今年度の2・3年生ともに、昨年度の数値を上回っており、生徒の人権に対する意識は高くなった。今年度の1年生も、昨年度の1年生と比較すると数値が高く、意識を高めることができたと考える。

図1の人権教育推進アンケートについては、平成25年10月、平成26年2月、平成26年7月の3回実施した。おおむね、すべての項目で順調に数値を伸ばすことができた。また、人権教育推進アンケートから、学校行事等を行った後は、自己有用感や、友達（仲間）のことを大切にしようという項目についての数値が向上しており、学校行事をとおしても、人権教育を推進することができた。

表1. 人権感覚アンケート結果（全項目の平均値）

	1年生	2年生	3年生
H26.7	4.12	3.83	3.96
H25.9	3.75	3.86	3.61

図1. 人権教育推進アンケート結果



しかし、人権教育推進アンケートの中で、「自分は周りの人から期待されていると思うことは大切だ」という項目の数値は、下がってしまっている。今後も、善行賞の利用や、教職員の温かい言葉かけ等で、生徒の自己有用感を高めていきたい。

6. 実践事例についての評価

取組についての評価

- 1 道徳・特別活動・総合的な学習の時間を軸とする人権教育の推進の相乗効果
教科と比較すると、道徳・特別活動・総合的な学習の時間は、教職員と生徒との信頼関係が授業の質を大きく左右する。人権教育を推進していくことで、教職員と生徒との信頼関係がより確かなものとなり、互いに相乗効果を生んだ。特に担任の教員と生徒との信頼関係は確実に向上した。

研究発表会において、質の高い道徳・特別活動・総合的な学習の時間の授業実践ができたことは、人権教育の推進が図れた結果と考える。

- 2 生徒の人権に関する意識の高まり

人権感覚アンケートの回答の平均値の高まり、人権教育推進アンケートの全体的な伸びを鑑みると、生徒の人権意識は確実に高まった。

- 3 教職員の人権に関する意識の高まり

善行賞を受賞した生徒数の着実な増加は、教職員が積極的に生徒の良い点を見つけているということが裏付けられる。生徒の良いところを見つけ、認めることが人権教育の基本的な第一歩と考える。

- 4 保護者・地域からの好意的な感想

先日、文化祭に来られた一般の方から匿名のお手紙を頂いた。その内容は、生徒と教職員の温かな関係に感銘したという有り難いものであった。保護者の方も以前と比較すると、学校に対して協力してくれる方がさらに増え、学校行事でも参加される保護者の方が増えた。このようなことから、人権教育を進めたことが、教職員と保護者及び地域の方々とのさらに良い信頼関係の構築に繋がったと考える。

今後の課題

これまでの取組を更に効果的に進めるために、小中一貫教育を踏まえた9年間を見通した人権教育の推進、地域や家庭へのさらなる啓発及び、地域や家庭を巻き込んだ組織的な人権教育の推進が課題と考える。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

久喜市立菖蒲中学校

取組の「きっかけ」として、生徒指導上の課題への対応から道徳教育の充実(心の育成)へ、更にその成果と課題を踏まえて、積極的生徒指導の機能を生かした人権教育の研究へという経緯が書かれている。

特に、「人権教育の基本的な概念」や人権教育の方向性について共通理解を図る教職員研修を積極的に行うなど、「学校として一本化された人権教育」を推進するための推進体制づくりを行った点や、授業実践を通して生徒・教職員・保護者の信頼関係が醸成されている点などは参考になる。また、人権教育と道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間等の目標やねらいとの関連を考察し、「人権教育推進アンケート」の14項目の指標(目指す姿、資質)に反映させている。課題として「9年間を見通した人権教育指導計画を作成」が挙げられている。本校の実践を持続的・効果的にするために大切な課題である。